



図-47 川の流れによる浸食作用（南会津郡下郷町塔のへつり）

岩石の割れ目に入った水の圧力や、その時の空気の圧縮による作用、岩石の破片やれきが再び岩石にぶつかる作用とともに、海岸をしだいにけずりとっていきます。海岸に見られる切り立った涯（海食涯）はこのようにしてできたものです。また、この涯の一部に断層や割れ目などの弱い部分があると、海水ははげしくその部分をけずり、いったんくぼみが出来た部分は大きくけずりとられて穴（海食洞）があいてきます。図-48 はいわき市の海岸に見られる海食涯と海食洞です。

海水によってくだかれた岩石の破片やレキは、波によって平らになった海底にたまり、やがて、平らな台地（海食台地）をつくります。この時、沿岸流が破片やレキを持ち去るような条件にあると、次々に海岸がけずりとられてしまいます。

波による浸食の地形は、本県の海岸線のいたる所に見られ、特に双葉郡の海岸線には切り立った海食涯が並び、みごとに景観を呈しています。



図-48 波による浸食作用（いわき市沼ノ内）